

札幌市が目指す

共生社会とは？

2024. 10.25(金)
札幌市 ユニバーサル推進室

UD フォント

本資料は、誰でも見やすいユニバーサル
デザインフォントを使用しています。

なぜ、今？

なぜ、
「ユニバーサル」
か？

インデックス

1 背景

2 札幌市の取組

3 ユニバーサルデザイン

1 背景

2 札幌市の取組

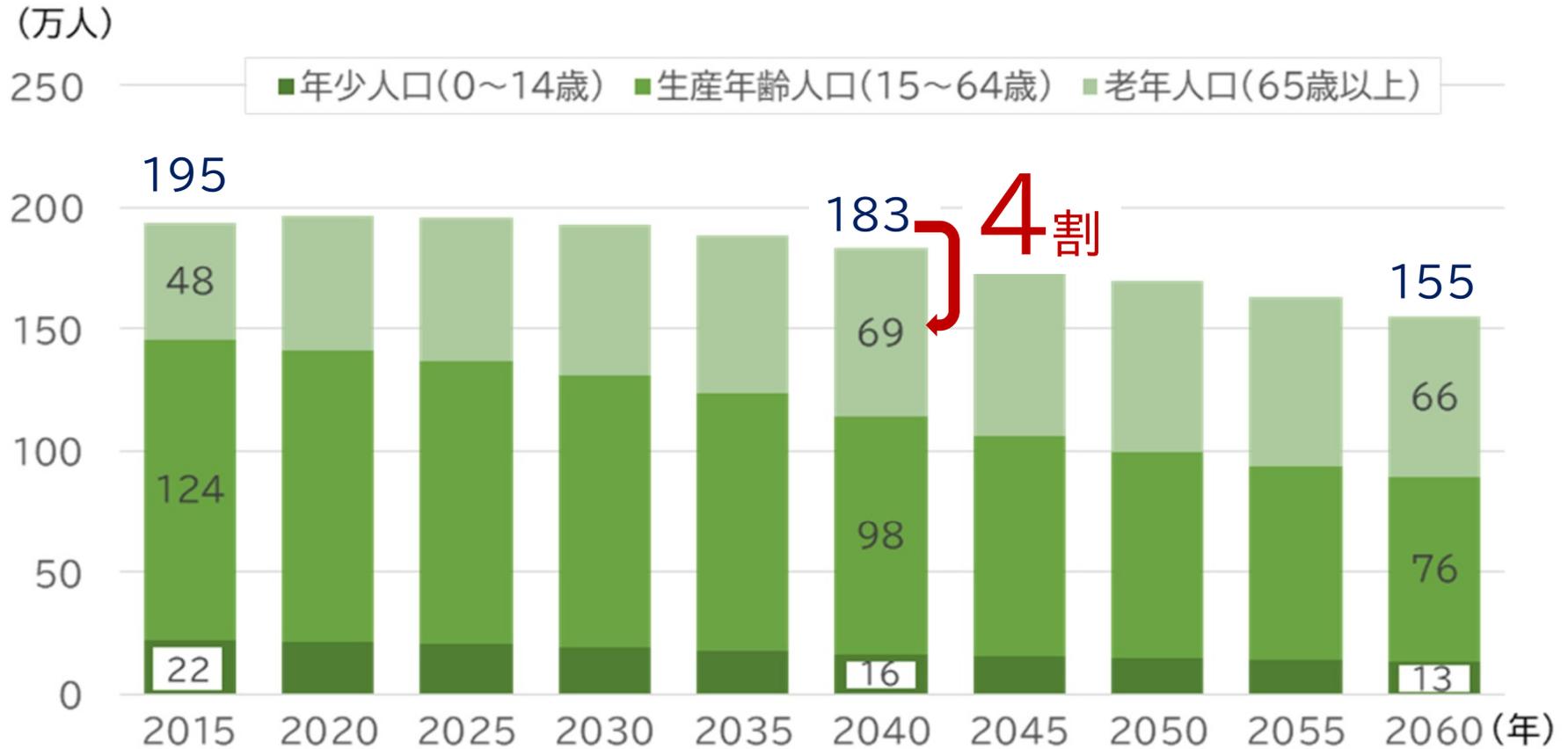
3 ユニバーサルデザイン

[札幌市が100人の村だったら]



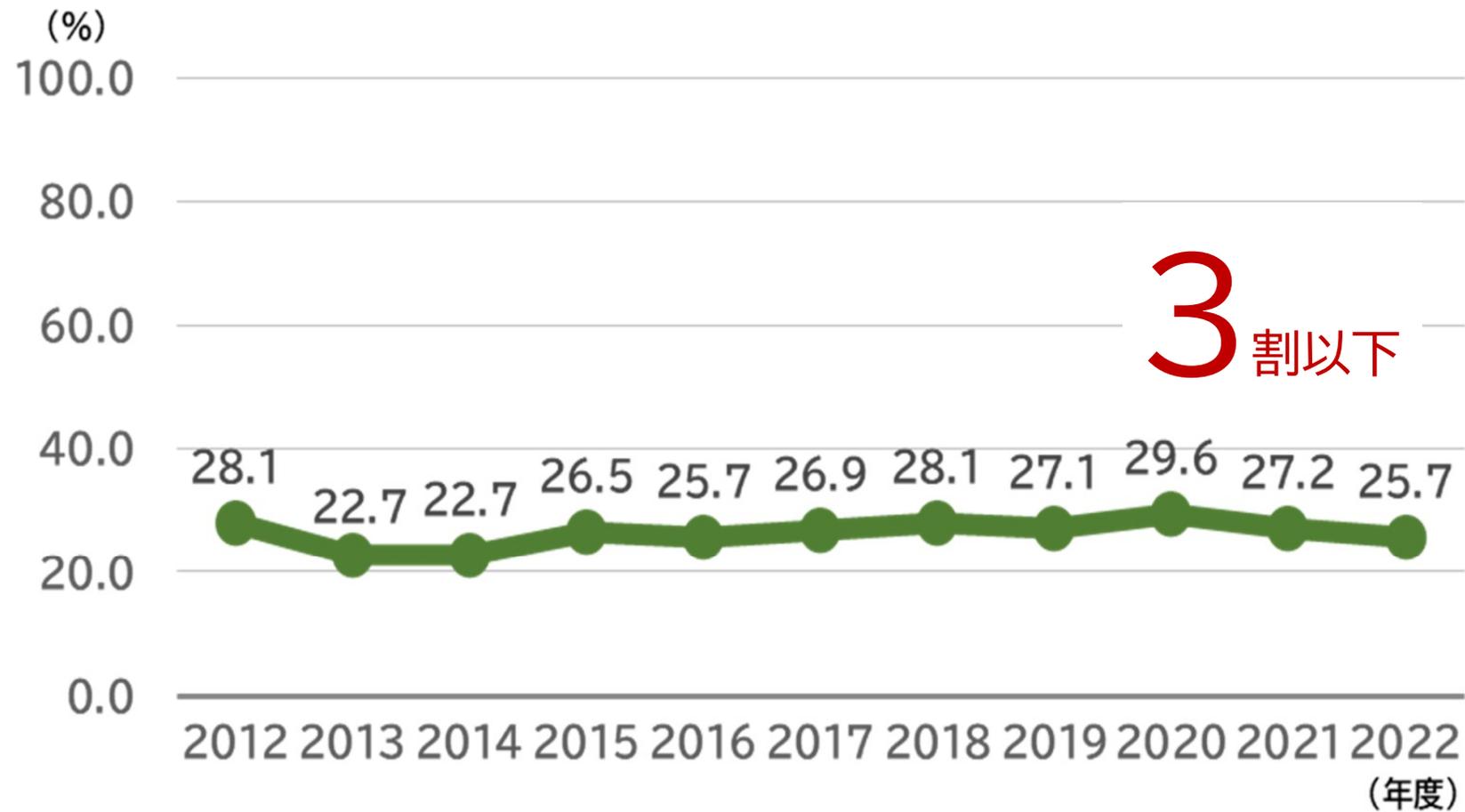
<資料>札幌市まちづくり政策局「令和4年版札幌市統計書」、札幌市保健所「令和3年度人口動態統計」、電通ダイバーシティラボ「LGBTQ+調査2020」

■札幌市の人口の将来見通し

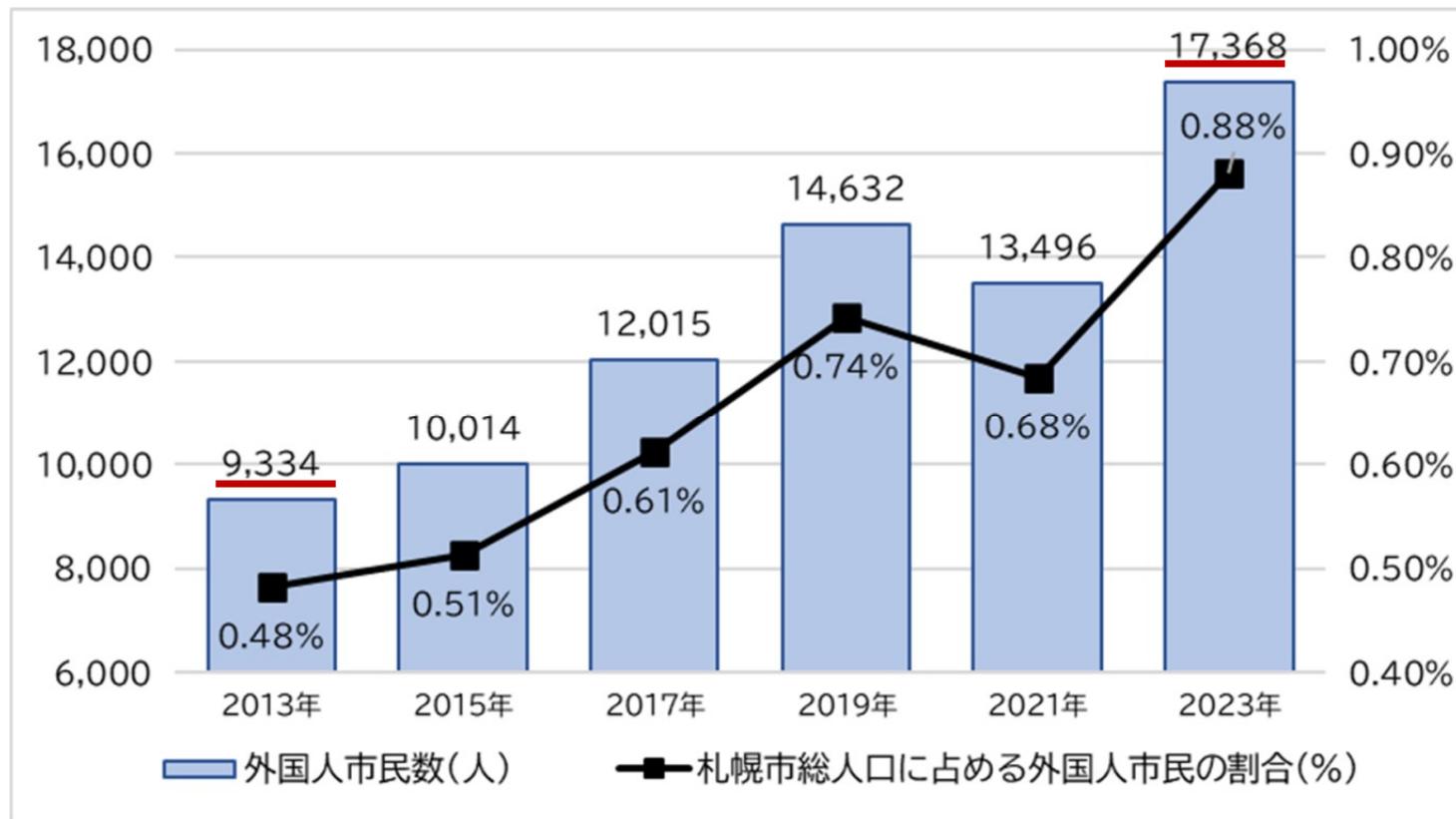


※ 各年10月1日現在。四捨五入により合計が一致しない場合がある。

■「障がいのある人にとって地域で暮らしやすいまち」と思う人の割合



■外国人市民数・総人口に占める外国人市民の割合



※ 各年5月1日現在

誰もが互いに
その個性や能
力を認め合い、
多様性が強み
となる社会



共生社会

DE&Iの
社会実装



1 背景

誰と誰の
共生？

1 背景

共生社会の
「当事者」とは？

年齢	性別	性的指向	ジェンダー アイデンティティ
障がい	持病疾病	国籍	民族
言語	宗教	文化	人種
家族構成	学歴	職種	職歴
出身地	血液型	収入	趣味
利き手	身長	体重	体形
視力	聴力	握力	誕生日
肌の色	髪の色	目の色	声色
ライフスタイル	未既婚	価値観	考え方

1 背景

誰もが
当事者

インデックス

1 背景

2 札幌市の取組

3 ユニバーサルデザイン

2 札幌市の取組



総合計画

【第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン】

ユニバーサル(共生)を位置づけ

個別計画

【ユニバーサル展開プログラム】

事業の見える化(一覧化)

(仮称)

札幌市誰もがつながり合う
共生のまちづくり条例

ハード面（空間・施設）



○誰でも利用しやすい施設



- ▶ インクルーシブ遊具を採用した公園（農試公園）

障がいのある・なしや個性の違いに関係なく、“みんなで遊べる場所”を整備

○誰でも分かりやすいサイン



- ▶ ピクトグラムの活用

文字だけでなく画像や音声など表現方法を工夫。障がいや集中力に関係なく情報を提供

【課題】

「各施設利用者」のニーズと「施設管理者」のニーズに、コンフリクト（摩擦・対立）が存在

例) 多目的トイレの整備に当たっての、障がい者やLGBTQの方の設置ニーズと、設置面積上の制約に関する施設管理者側のニーズ

ソフト面（製品・サービス・情報）



○誰もが使いやすいサービスや商品



▶ 広報に関する色のガイドライン

カラーユニバーサルデザインに対応した広報を実施

【課題】

障がいの種別など特定の属性ごとに、サービスが乱立

全体最適化が図られていない

○誰もが必要な情報を容易に得られる



▶ ユニバーサル地図ナビ

車いすユーザーや高齢の方等の徒歩移動をサポートするため、バリアフリー経路情報等を発信するサービスを提供（R5年度～）



▶ 札幌ナビ

利用者の目的に沿った札幌市の施設（飲食店や観光施設など）を提示し、公共交通を利用したアクセス方法を提案するサービスを提供（R2年度～）

ハート面 (意識)



○心のバリアフリー※の理解



▶ 心のバリアフリー研修

市民・企業・親子向け研修を実施

※様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合うこと

○多様性（ダイバーシティ）の理解



▶ 各自が抱える障壁(バリア)を考える市民ワークショップ

(仮称)誰もがつながり合う共生のまちづくり条例の制定検討の一環でR6.6に実施

【課題】

「誰もが当事者」であるという意識が浸透していない

「障がいの社会モデル※」の市民への浸透、障がい分野以外の分野への波及

※「障がい=バリア」は個人の心身機能の障がいと社会的障壁(物理的、制度的、文化・情報面及び意識上)の相互作用によって創り出されているもので、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるとの考え方。

インデックス

1 背景

2 札幌市の取組

3 ユニバーサルデザイン

[ユニバーサルデザインの誕生]

【時期】 1980年代

【場所】 アメリカ

【生みの親】

ロナルド・メイス

(ノースカロライナ大学教授・建築家)

9歳の時に病気にかかった後は、電動車いすを使って生活していた。

不便を解消するものが
「障がいのある、特別な人のためのもの」
と考えて作られると、
障がいが無い人の気持ちのどこかに、障
がいがある人に対してバリアが生まれるこ
とが多い(自分と違う…、かわいそう…)。

「だったら最初から、みんな
に使いやすいものを作れ
ばいい！」

【ユニバーサルデザインの特徴】

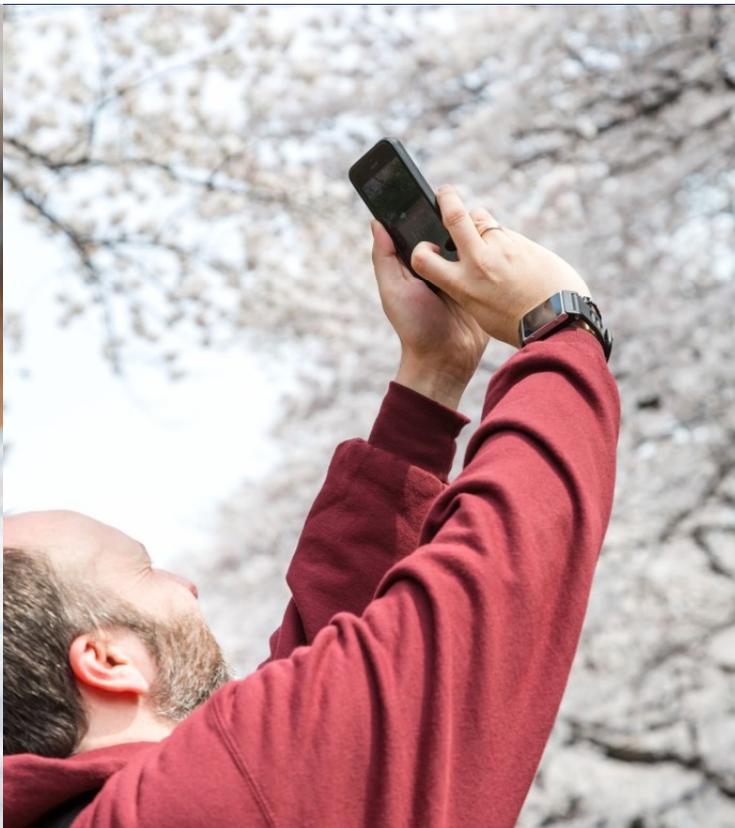
- ① 「**あらかじめ**」、より多くの人に
使いやすいよう考える
- ② 「**技術の発達**」を踏まえ、今より
使いやすい人を増やす
- ③ 「**特定の人だけを対象としない**」

最後に…

なぜ、今？

最後に…

なぜ、
「ユニバーサル」
か？



高齢者人口の
増加

グローバル化の
進展
(外国人人口の増加)

価値観の多様化

まちづくりの
大転換期



DX×UD

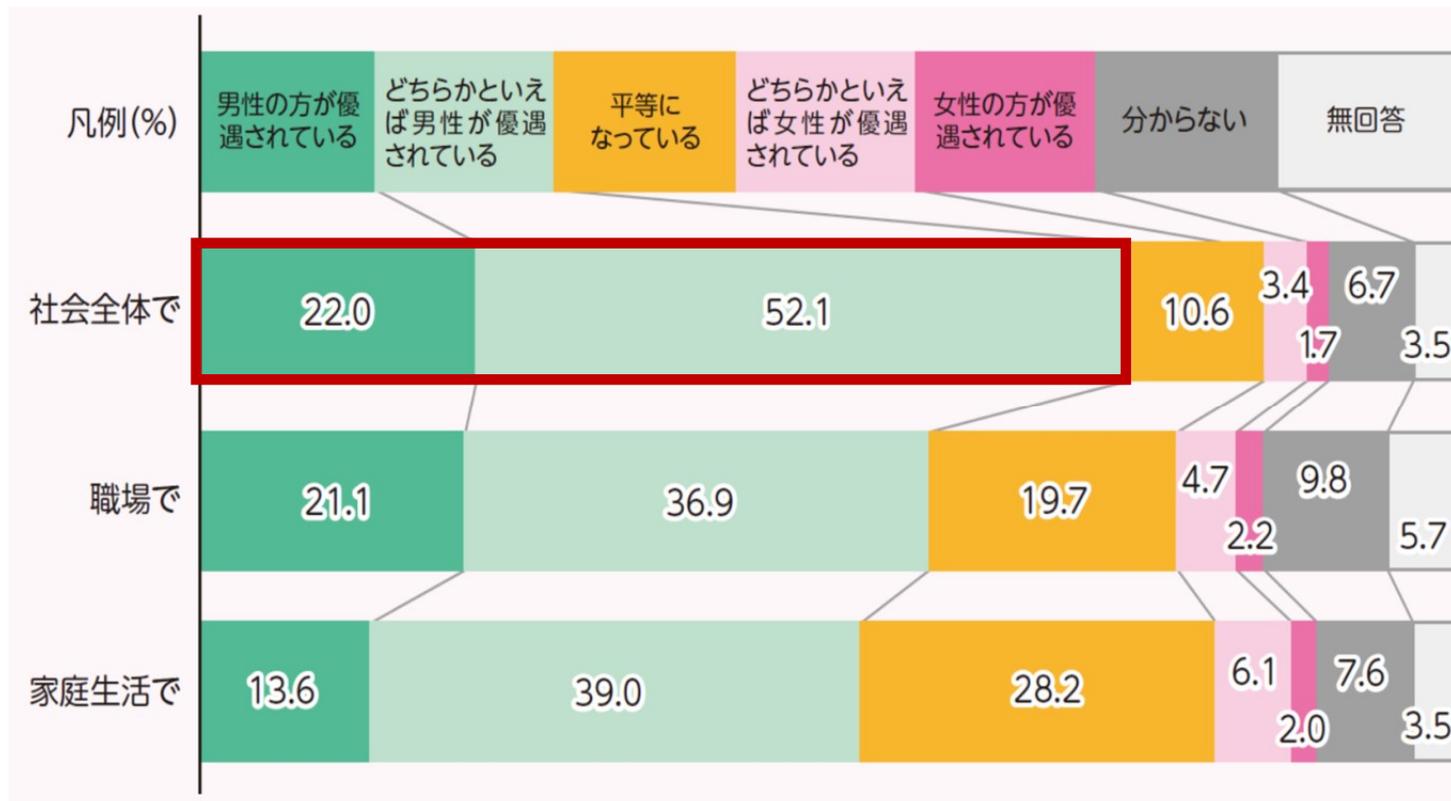


ユニバーサル
な社会



參考資料

■ 分野別の男女の地位の平等感の割合



※ 令和3年度(2021年度)

[バリアフリーとの違い]

	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
考え方	あとからバリア(障壁)を <u>取り除く</u>	最初からバリア(障壁)を <u>つくらない</u>
対象	高齢者や障がい者などの バリアを感じている人	全ての人



暮らしやすい社会の実現

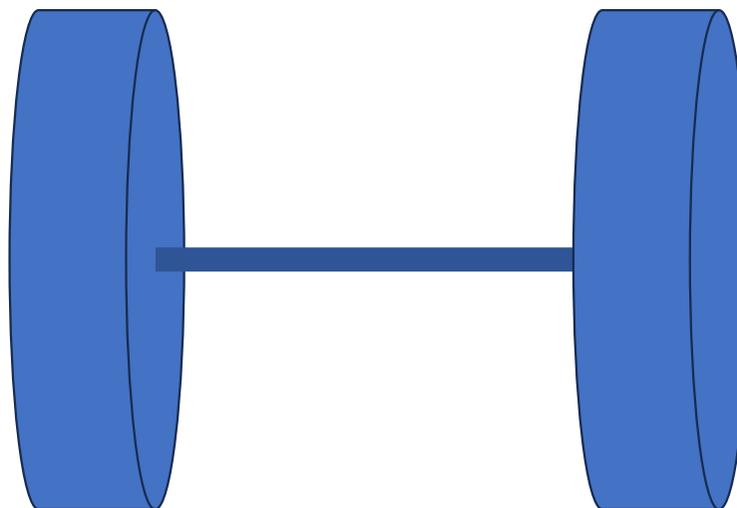
[インクルーシブデザインとの違い]

インクルーシブデザイン

障害当事者をはじめとする少数派(マイノリティ)など、従来のデザインプロセスから除外されていた方々とともに、新たな価値を創造するデザイン手法

インクルーシブ デザイン

特定利用者の利用実態等から、課題を発見し、解決に向けた仮説をつくる。



ユニバーサル デザイン

可能な限りすべての人の利用に資するよう考え、7つの原則をもとにデザインを検証する。